

参加型学習の意義と ファシリテーションの基礎

目標：社会教育における参加型学習の意義、
ファシリテーションの基礎的な知識・
技能等について学ぶ。

ぼれっとひろしま

広島県立生涯学習センター

目次

- 1 社会教育における参加型学習**
- 2 ファシリテーション**
- 3 ワールド・カフェの紹介**

1 社会教育における参加型学習

社会教育における新たな学習手法

(従来の手法)

方向的に知識や技術が伝達される学習手法
(講演・講義)

参加型学習

**経験や意見の交流を通してお互いに学び合い、
参加者の主体的な学びを促進する学習手法**

**近年、様々な分野において活用されており、
“新しい学びのスタイル”として注目！**

参加型学習の手法

- ワールドカフェ
- ブレーンストーミング
- ラベルワーク
- ランキング
- ディベート
- ロールプレイ
- シミュレーション
- フィールドワーク 等

参加型学習は万能なのか？

課題

目新しさ、場の盛り上がりにより注意が向かいがち

“手法ありき”からの脱却

“目的”を見失わないことが重要！

学習成果を意識する

- ・ 学習課題の解決がなされているか？
- ・ 学習者の成長があるか？
- ・ 学習活動の意味が継続して残っているか？

社会教育における参加型学習

○参加型学習の特徴

- ・自ら“主体的に参加”して，“体験”から学ぶ
- ・“お互いから”学び合う
- ・参加者自身の多様な経験が学習資源

○参加型学習の意義

- ・現代的課題解決へのアプローチ
 - ・“学び方”を学ぶ（“何を学ぶか”より“どのように学ぶか”を重視）
 - ・当事者意識を育む
- （・社会教育関係職員自身の学びや成長）

参加型学習の基本的な流れ

- ① **導入**
(学習目標の共有化と学習の場づくり)
- ② **個人ワーク**
- ③ **グループワーク**
- ④ **シェアリング**
(学習の振り返り, 学習効果の共有化)

参加のためのルール

- **積極的に**自分のもつ**経験や情報**, **意見を**
出し合う (学習資源)
- **他者の意見を否定しない**
(安心・安全に発言できる環境づくり)
- **平等な発言の機会を設ける**
(対話による学習方法)
- **秘密の保持**
(プライバシーへの配慮)

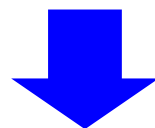
プログラムを立案するためのに必要な資質や能力

- 学習支援方法の全体像を把握した上で、**参加型学習の意義と特性を十分に理解しておくこと**
- **学習目標や学習課題を適正に設定し、その達成に相応しい学習内容・方法・形態を含む学習プログラムを立案すること**
- 学習者が主体的に課題解決を行うには、**学習内容と参加型学習の手法をマッチングさせ、より良いファシリテーションを行うこと**

2 ファシリテーション

ファシリテーションとは

facilitate= 「促進することを容易にする」

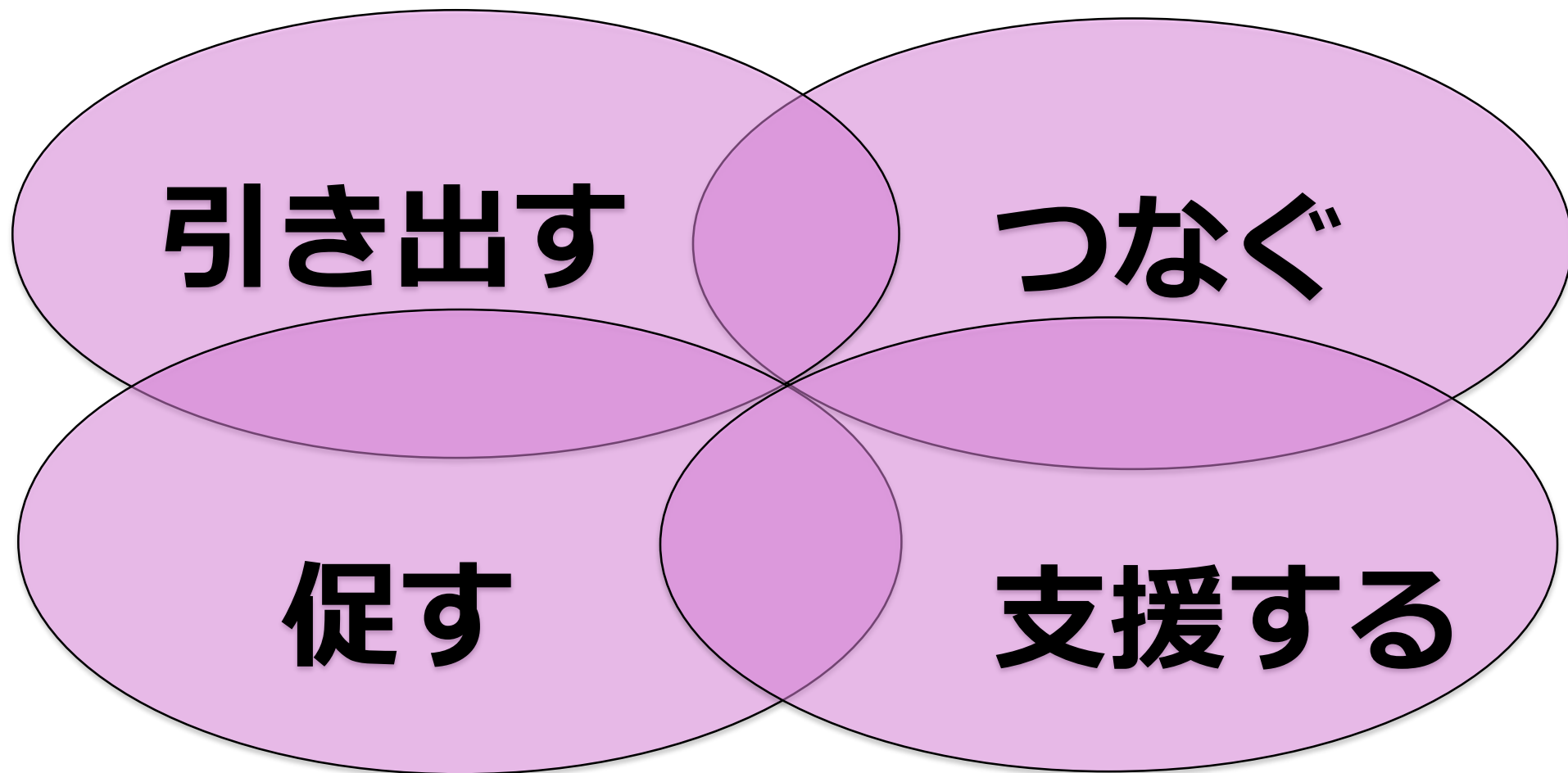


主役である「参加者」が話し合いや会議などの参加型の場において、「何かをする」ことを促進したり、やりやすくするための手法

その役割を担う人 → **ファシリテーター**

ファシリテーターの役割

人々の活動が容易にできるように支援し，うまくことが運ぶように舵取りをする



ファシリテーションの基本プロセス

4つのステージ

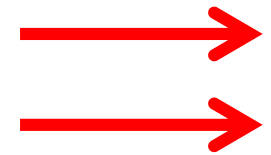
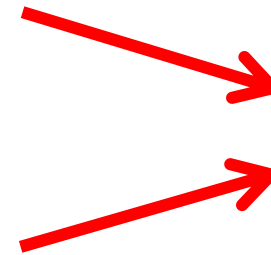
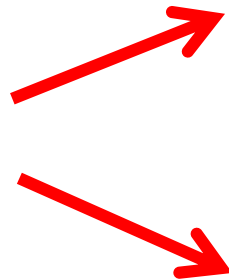
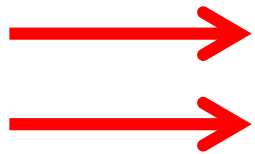
①共有

②発散

③収束

④共有

再び



情報の共有
目的の共有
ルールの確認
お互いに知り合う

意見を出し合う
アイデアを広げる
様々な可能性を探る

生みの苦しみ
話し合い,
考え抜く

まとめる
整理する
絞り込む

振り返り
学習成果の共有
次につなげる

ファシリテーターの4つのスキル

場のデザインのスキル

- 場をつくり, つなげる
- ・プログラムの設計
- ・アイスブレイク

合意形成のスキル

- まとめて, 分かち合う
- ・振り返り
- ・分かち合い
- ・フィードバック

対人関係のスキル

- 受け止め, 引き出す
- ・傾聴と問いかけ
- ・非言語メッセージ

構造化のスキル

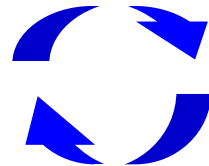
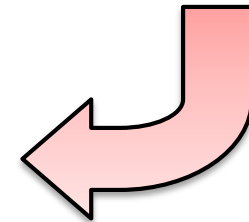
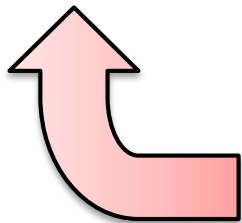
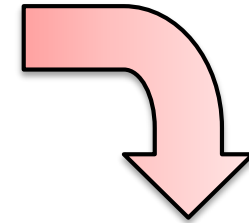
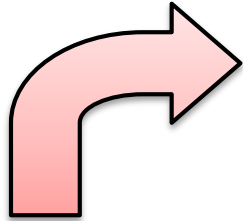
- かみ合わせ, 整理する
- ・意見の集約
- ・板書, 記録 (見える化)
- ・時間管理 (タイムキープ)

共有

再び
共有

発散

収束



場のデザインのスキル

- ① オリエンテーション
- ② グループニング
- ③ 空間のデザイン
- ④ アイスブレイク
- ⑤ リデザイン

場のデザインのスキル①（オリエンテーション）

～場をつくり，つなげる～

○目的と目標（ゴール）

- ・「何のためにやるのか」という目的を明確にする。
- ・「参加者の終わった時の状態」をイメージして，目標（ゴール）を決める。

○タイムスケジュール

- ・ゴールに向けた流れを説明

○役割，ルールの確認

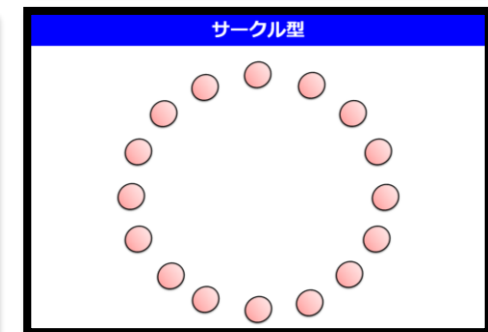
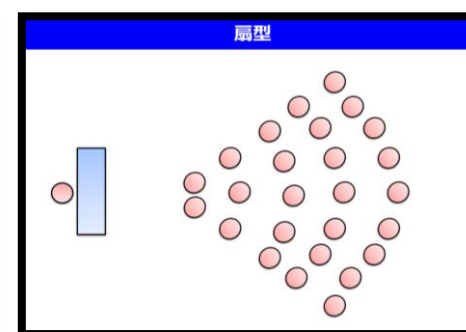
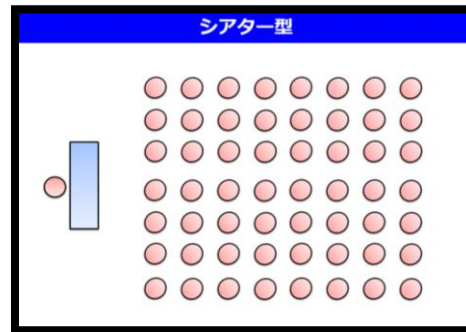
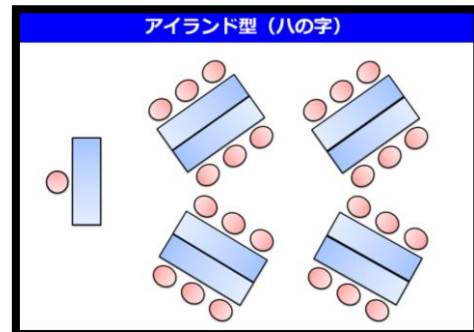
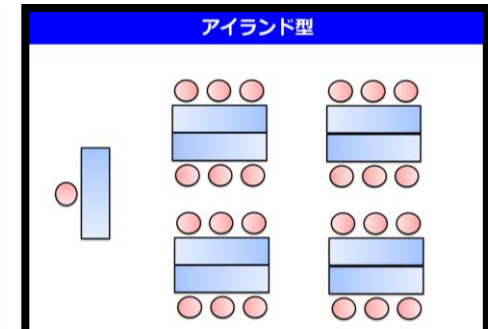
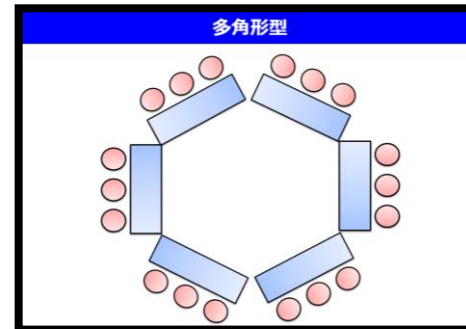
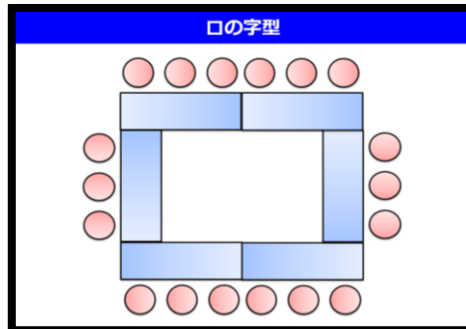
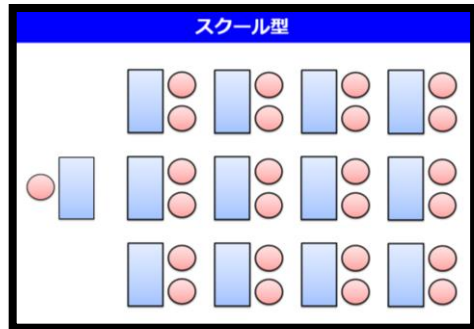
- ・一人一人の役割とルールを確認
→安心・安全の場づくりのための約束

～様々なグループの特徴を知る～

- 1人：まずは個人ワークから（じっくり考える）
- 2人：ペア（コミュニケーションの基本）
- 3人：3人寄れば…
- 4人：ペア×2
- 5～6人：小グループの作業に適している

場のデザインのスキル③（空間のデザイン）

～話しやすい環境づくり～



- BGMや照明
- 香り
- 模造紙等を貼る場所
- ホワイトボードやプロジェクターの位置
- お茶やお菓子

～緊張の氷を溶かす～

- 心や体の緊張をほぐす
- 安心・安全・快適な場を作る
- 場を和ませる

- ※ **目的**や状況に応じたアイスブレイクを
- ※得意な技をいくつか持っておきたい
- ※何のためにやるのかを忘れずに

～状況に応じて～

- 参加者の置かれている状況や，グループにおける話し合いの状況に応じて，プログラムを組み替える。
- プログラム終了後，「目的」や「目標」に対して，結果としてどうだったか客観的に振り返りを行う。

対人関係のスキル

～受け止め，引き出す～

○傾聴の姿勢

- ・ 参加者の多様性をありのまま，そのまま受けとめる
- ・ うなずき，あいづち（聞いてもらっているという安心感）
- ・ 「聞いていますよ」というメッセージを伝えることが大切
例）「なるほど」，「〇〇さんはそう思うんですね」

○問いかけ（質問）

- ・ 開かれた質問（オープンクエスチョン）→ 広げ深める
- ・ 閉じられた質問（クローズドクエスチョン）→ 絞り込む
- ・ 問いかけ，待つ，引き出す（プル）
- ・ 圧力（プッシュ）をかけて，促進する

○非言語メッセージ

- ・ 身体・表情・視線・声や口調・姿勢，動作・距離感など

～かみ合わせ，整理する～

○意見を集約していく

- ・質問 例) 「共通点は？」 「どんな効果があるか？」
- ・型を示す

○板書，記録（見える化）

- ・みんなが見えて，共有できる工夫
※決定したことを書くのではなく，決めるために書く

○時間を管理する（タイムキープ）

「あの時計で○分までです」 「あと1分です」

～まとめて、分かち合う～

○振り返りと分かち合い

- ・ 感じたことや気が付いたことを出し合う。
- ・ 気づきを明らかにして、学習の成果を共有する。
- ・ とともに過ごした時間の意義を再認識する。
- ・ 次につなげる。

ファシリテーションで心がけたいこと

○受け止める

- ・参加者の発言や態度を受け止める

○公平に接する

- ・どのような参加者も同じく尊重する

○信じる

- ・参加者は自ら考え、自ら答えを出していくことができる

○謙虚である

- ・主役は参加者であると認識し、黒子のように支援する

○思いやる

- ・参加者の立場に立ち、思いやり、安心・安全な場をつくる

3 ワールド・カフェの紹介

ワールド・カフェって何？

カフェで語り合うような雰囲気
で、メンバーを替えながら対話を重ねる手法。

結論や答えを特に求めず、参加者同士がしっかりと意見や情報の交換を行うことができ、全体の共有度が高くなる。



ワールド・カフェの標準的なプロセス

第1ラウンド

20分～30分

テーマについて
探求する

4人ずつテーブルに座って、問いについて話し合う。

第2ラウンド

20分～30分

アイデアを
他花受粉^{※1}する

各テーブルに1人のホストだけを残して、他のメンバーは旅人^{※2}とし別のテーブルに移動する。新しい組み合わせになったので、改めて自己紹介し、ホストが自分のテーブルでの対話の内容について説明する。旅人は自分のテーブルで出たアイデアを紹介し、繋がりを探求する。

第3ラウンド

20分～30分

気づきや発見を
統合する

旅人が元のテーブルに戻り、旅で得たアイデアを紹介し合いながら対話を継続する。

第4ラウンド

20分～30分

集合的な発見を
収穫し、共有する

ファシリテーターが進行し、全体で対話する。

『ワールド・カフェをやろう！』香取一昭・大川恒より引用

対話を楽しむために…

- テーマに意識を集中して話し合きましょう。
- あなたの考えを積極的に話しましょう。
- 話は短く、簡潔に。
- 相手の話に耳を傾けましょう。
- アイディアをつなぎ合わせてみましょう。
- とともに耳を傾けて深い洞察や問いを探しましょう。
- 遊び心で、いたずら書きをしたり、絵を描いたりしましょう。

ワールド・カフェ スタート！



○えんたくん

段ボールを丸型に加工し、椅子を囲んで膝の上に乗せ、話し合うことができるコミュニケーションツール。机が不用、角が無いので書きやすく、輪になれるので参加者の距離を縮めることができる。



〈テーマ例〉

あなたが思う、考える、 理想のファシリテーション

- アイディアを出し合いましょう。
- アイディアを「えんたくん」に
どんどん残しましょう。

ワールド・カフェ 第2ラウンド

- ★ 「テーブル・ホスト」を一人決める
- ★ 他のメンバーは「旅人」として、別のテーブルへ移動



- ★ ホスト：自分のテーブルでの対話の内容を紹介
- ★ 旅人：前のテーブルでの対話の内容を紹介

テーブルクロスに
書き込みながら



→ アイディアをつなぎ合わせていきましょう

ワールド・カフェ 第3ラウンド

- ★ 「テーブル・ホスト」は残る（同じ人）
- ☆ 他のメンバーは「旅人」として、別のテーブルへ移動



- ★ ホスト：自分のテーブルでの対話の内容を紹介
- ☆ 旅人：前のテーブルでの対話の内容を紹介

テーブルクロスに
書き込みながら



→ アイディアをつなぎ合わせていきましょう

ワールド・カフェ 第4ラウンド

最初のテーブルに戻りましょう



▶ 振り返りましょう

→ アイディアのつながりを発見しましょう

→ どのような気づきがありましたか

▶ 共有しましょう

→ キーワードにまとめて紹介しあいましょう

※ テーマについて「キーワード」にまとめる (A3用紙)

気づき, アイディア, 感想, 決意表明?!

印象に残った言葉… なんでもOK!

→ 「ワールド・カフェ」で、皆で発見したことを共有しましょう。

ファシリテーションで心がけたいこと

○受けとめる

- ・参加者の発言や態度を受け止める

○公平に接する

- ・どのような参加者も同じく尊重する

○信じる

- ・参加者は自ら考え、自ら答えを出していくことができる

○謙虚である

- ・主役は参加者であると認識し、黒子のように支援する

○思いやる

- ・参加者の立場に立ち、思いやり、安心・安全な場をつくる

振り返り・分かち合い

- あなたが思う、考える理想のファシリテーションは、イメージできましたか？
- あなたは、自分の持っている情報（経験や意見）をメンバーに分かりやすく伝えましたか？
- グループでの演習の中で、他のメンバーの言動から気が付いたことがありましたか？
- 今後、あなたの仕事や活動のどんな場面で、今日の講義や演習で学んだことが活用できそうですか？
- 今回の講義や演習を通して、感じたことや気づいたことは何ですか？

参考文献

- (1) 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（平成21年）
「参加体験型学習ハンドブック」
- (2) 中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美編著（2016）
「ファシリテーション 実践から学ぶスキルとところ」岩波新書
- (3) 鈴木まり子著「ファシリテーションのすすめ」（平成30年）
公益財団法人 モラロジー研究所
- (4) 香取一昭・大川恒編著（2017）「ワールド・カフェをやろう！
会話がつながり、世界がつながる」日本経済新聞出版社
- (5) 川島直・中野民夫編著（2018）「えんたくん革命 1枚のダンボール
がファシリテーションと対話と世界を変える」みくに出版
- (6) SPODフォーラム2012著（平成24年）「ワールド・カフェの手引き」
SPODフォーラム
- (7) 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（令和2年）
「生涯学習支援論ハンドブック」